

Title	教育が生産性に影響を与える多面的経路の研究
Author(s)	大谷, 剛
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/216
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	大谷 剛
博士の専攻分野の名称	博士（経済学）
学位記番号	第 18936 号
学位授与年月日	平成 16 年 6 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経済理論専攻
学位論文名	教育が生産性に影響を与える多面的経路の研究
論文審査委員	(主査) 教授 松繁 寿和 (副査) 教授 大竹 文雄 助教授 小原 美紀

論文内容の要旨

本研究は、教育が賃金や職位などに影響を与える様々な経路を多面的に分析することを目標としている。これまでに人的資本理論やシグナリング理論を利用した分析は数多くなされてきた。しかしながら、教育が賃金や職位に影響を与える経路はこれら以外にも存在する。例えば仕事競争モデルや allocative ability がそれである。本研究では、これまでに十分な実証分析が蓄積されていないこれら二つのモデルに特に焦点を絞った分析を行った。

第 1 章では、社会科学系学部・工学部・文学部卒業生の賃金格差とその要因を分析している。結果は、社会科学系学部卒業生と工学部卒業生の所得を年齢や勤続をコントロールした上で比較すると、前者の方が高いことが分かった。その理由としては前者には金融業従事者が多いこと、また前者の勤続年数や年齢の係数が大きいことが挙げられる。社会科学系学部卒業生と文学部卒業生の所得比較からは、前者の所得が高いことが分かった。その理由は、後者には公務員が多いこと、さらには前者の勤続年数や年齢の係数が大きいことが挙げられる。またいずれの学部についても、成績は賃金に対して正の効果をもつことが概ね確認された。

第 2 章では、成績や大学入学前に蓄積された教育水準に着目しつつ、部長から役員への昇進を分析している。その際、生え抜きか否かという点にも注意を払った。使用データは社会科学系学部卒業生から得られたものである。結果は、成績、大学入学以前に蓄積された教育水準、それに 30 歳未満の事業所間異動回数といった比較的若い時期の蓄積が役員昇進に正の効果を持つということであった。

第 3 章では、仕事競争モデルの着想を利用して、成績の初任給に与える効果が労働需要に応じて変動する可能性を分析している。結果は、労働需要が減少し仕事の割り当て (rationing) が生じる時には、成績が初任給に対して正の効果を持つ。しかし労働需要が旺盛であり、割り当てが生じないときには成績の効果は無くなるというものであった。

第 4 章では、仕事競争モデルと人的資本理論、シグナリング理論の現実妥当性を検定している。使用データは工学部を卒業した学士・修士・博士である。検定は彼らの初任給とその後の賃金上昇率、言い換えると賃金カーブの傾きを利用して行われた。仕事競争モデルに従うと初任給には差が生じないが、賃金カーブの傾きは学歴が高い者ほど大きくなる。分析結果は、学士と修士・博士間で初任給に差がなく、賃金カーブの傾きについては後者のグループの方が大きいというものである。この結果は仕事競争モデルを支持するものである。

第 5 章では、女性の教育年数と家電製品普及率を利用し allocative ability を分析している。使用データは、他の章とは異なり公表集計データである。allocative ability とは、様々な生産技術の効率性を理解し、時間を含めた生産要

素の組み合わせを、最も効率的な生産を可能とするよう組替える能力であり、教育水準の高い者ほどこの能力が高いと考えられる。分析はまず都道府県別時系列データを利用し、県ごとの起点時期と普及速度を推計した。つづいてこれら推計された起点時期と普及速度を被説明変数、県ごとの女性教育年数等を説明変数として分析した。結果は、女性教育年数の高い県ほど起点時期が早く、また普及速度が速いというものであり、allocative abilityの重要性を支持するものであった。

第6章はまとめであり、ここまでの分析から得られた知見をもとに教育の効果を包括的に議論している。教育の効果は、人的資本理論が示すように技術・知識の向上を通じて生産性を上昇させるという面だけではなく、変化や異常への対応能力を育成するという側面も強く持っているとの示唆を得た。

論文審査の結果の要旨

本研究は、教育が賃金や職位などに影響を与える経路に関して、仕事競争モデルや allocative ability 等の視点から分析を進めている。同種の研究は、データの限界や推定の難度ゆえに、これまであまりなされてこなかった。しかし、当研究では、これらの問題点をいくつか克服し、注目されるべき結果をいくつか得ている。このような理由から、博士（経済学）として価値あるものと判断する。